

要 望 書

南九州地域の拠点港湾「八代港」の整備促進について
～地域経済の活性化のために～



令和5年9月28日
くまモンポート八代完成式典の様子

令和5年11月

熊本県八代市
八代港整備・活用促進期成会

八代港の整備につきましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

港湾は、我が国の経済や国民生活を支える極めて重要な社会基盤であり、豊かで活力ある地域経済の発展には地方港湾の成長は欠かすことのできないものです。

しかしながら、感染症等の拡大に起因する世界経済及び海上物流の混乱は経済社会活動にも大きな影響を及ぼしており、八代港を含めた地方港の貿易活動もいまだ回復途上にあります。

こうした地域経済の回復を図るためには、DX等の推進による港湾及び背後立地企業の生産性向上に加え、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策による強固なサプライチェーンを構築していくことが重要であることから、今後も継続した港湾の整備・振興に係る予算の確保が必要です。

八代港の近況としましては、本年8月末より台湾との国際コンテナ定期航路が改編され、八代港への追加寄港が行われることとなり、台湾からの輸入が従来の9日から4日へと大幅に短縮されました。

これにより、今後増加が見込まれる、半導体関連を中心とした台湾からの輸入貨物受け入れについて、大きく利便性が向上することとなります。

今回の追加寄港により、TSMCと日本法人との合弁会社であるJASM熊本工場にて使用される半導体原材料等の輸入も徐々に増加しており、国内半導体の集積地として今後大きく発展を遂げる本県において、八代港は海外貿易の拠点として着実な成長を続けています。

また、本年3月に国際クルーズの寄港が再開し、令和2年3月に完成していた「くまモンポート八代」にも、4月の「クイーン・エリザベス」を皮切りに多くのクルーズ船が寄港し、徐々に賑わいを取り戻しつつあります。去る9月28日には国際クルーズ拠点であるくまモンポート八代の完成式典も執り行われ、まさにポストコロナの新しい一步を踏み出すとともに、人流拠点としての八代港の可能性にも大きな期待が寄せられています。

八代港の発展は、本市のみならず県全体の浮揚につながるものであり、今後も更なる発展を目指し、一步ずつ着実に取り組んでまいります。

さて、物流網の要となる八代港において、依然として大型船入港時の喫水調整が生じており、今後の利用拡大を図るためには水深14m航路の早期完成による輸送コストの削減が喫緊の課題となっています。

また、令和6年度には外港地区において県内最大級となるバイオマス発電所の稼働が予定されており、原料となる木質ペレットの増加も見込まれていることから、既存岸壁の利用調整が困難となることも想定されています。

加えて、外港地区における企業誘致用地も令和3年には完売し、港湾エリアにおける新たな用地の確保も急務となっています。

このためにも、加賀島地区への水深12m岸壁をはじめとした原木ヤードの再配置等によるふ頭再編や港湾施設の効率化は、将来を見据えた重要な取組となります。

今後、本市や県南地域はもとより、シリコンアイランド九州の国際拠点港として八代港への期待が高まる中、より一層の利用促進に向け、水深14m航路の早期完成ならびに新たな貨物・企業立地需要への対応を可能とする港湾計画の早期見直しに係る関係機関への技術的支援について、ご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 一、水深14m航路の早期完成を図ること。
- 一、加賀島地区への水深12m岸壁の早期事業化を図ること。
- 一、港湾計画の早期見直しに向けた技術的な支援を行うこと。

令和5年11月

八代市長 中村博生

八代港整備・活用促進期成会長 松本喜一